

# 平成13年度 千臨技精度管理の総括と 今後の目標

輸血検査部門

日本医科大学付属千葉北総病院  
岡本直人

# はじめに

## 今回の特徴

✎ 前年度と同様の形式

テクニックではなく結果重視

✎ 検体の複雑化

難度の上昇

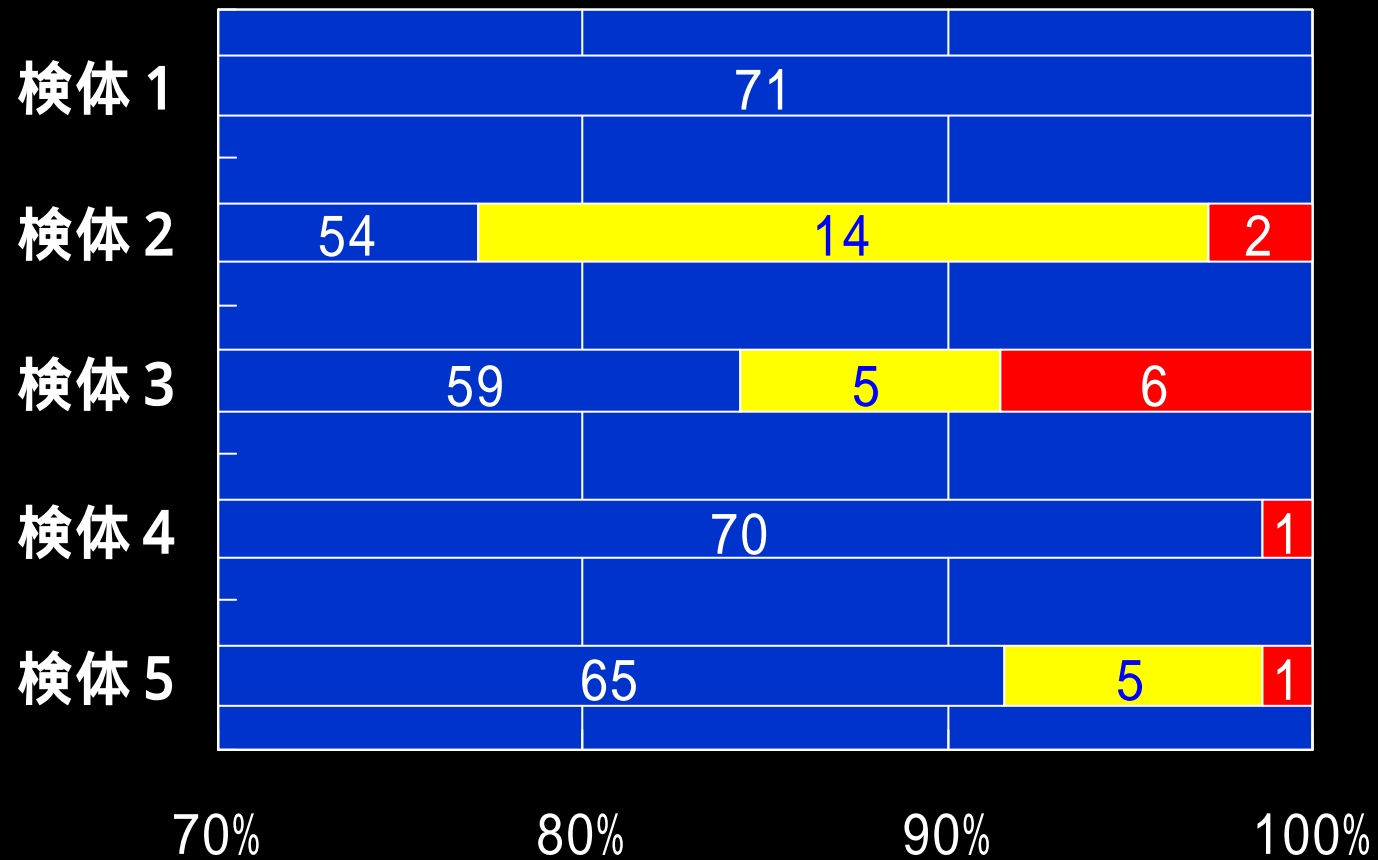
# 参加状況

	10年	11年	12年	13年
病院	50	57	62	65
検査センター	4	3	2	3
試薬メーカー	0	3	2	2
血液センター	1	1	1	1
保健所	0	0	0	1
合計	55	64	67	72

日常的に輸血療法を実施している施設 = 約 100

# 血液型

■ A評価 ■ B評価 ■ C評価



# 検体 2の亜型検査の結果

吸着解離試験実施 19

陽性 6

陰性 7

結果不明 6

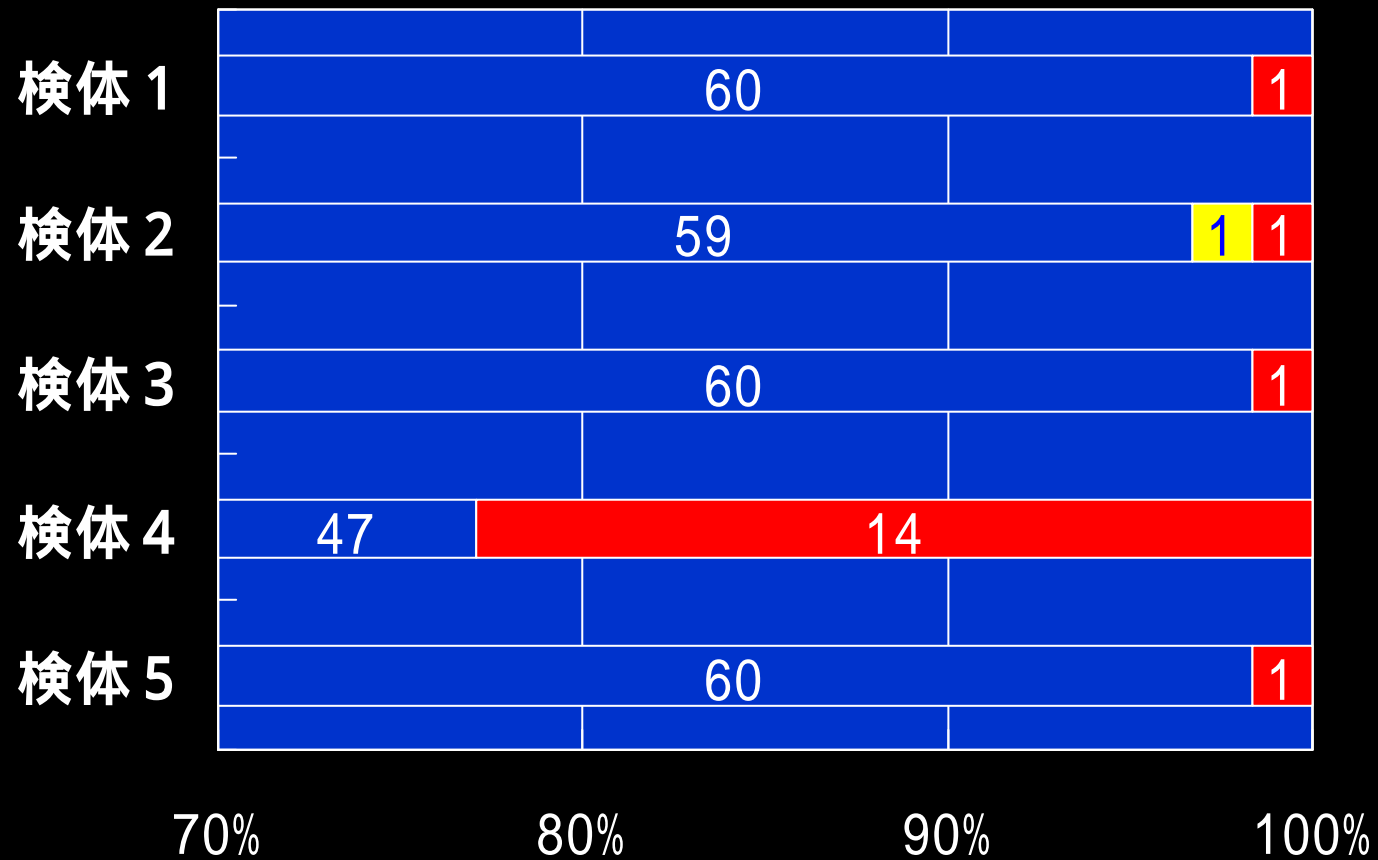
転移酵素実施 11

レクチン実施 2

結果は不明

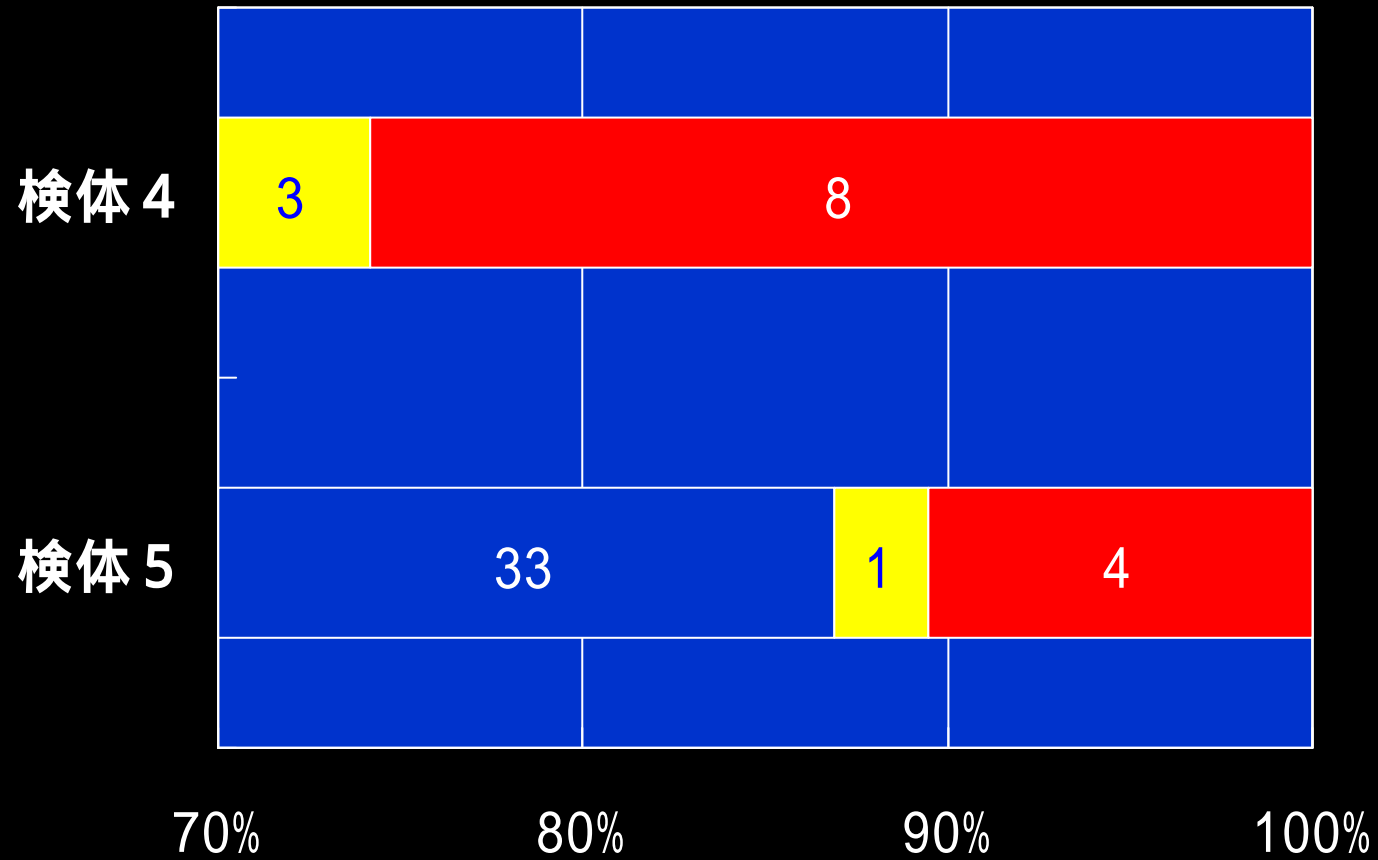
# 抗体スクリーニング

■ A評価 ■ B評価 ■ C評価



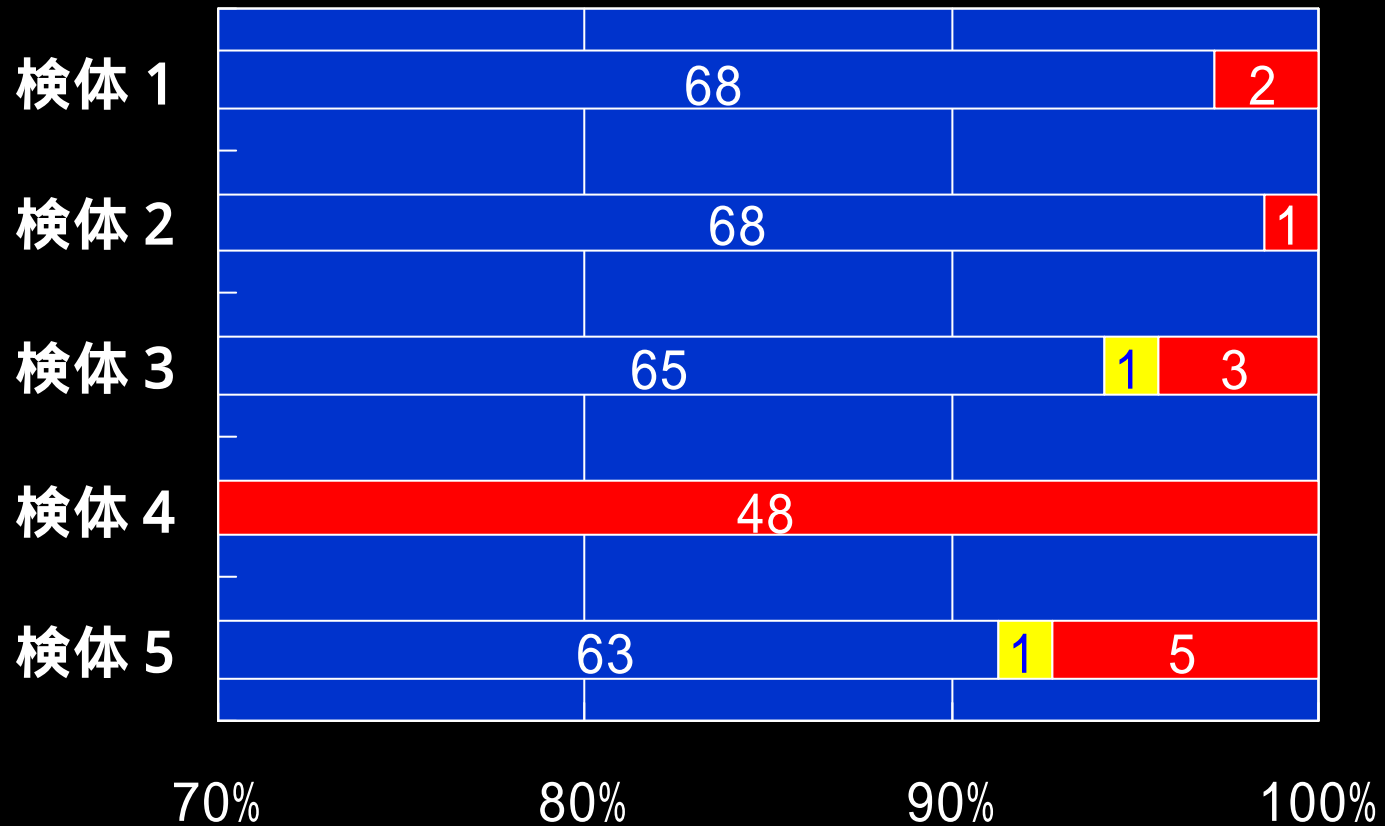
# 抗体同定

■ A評価 ■ B評価 ■ C評価



# クロスマッチ

■ A評価 ■ B評価 ■ C評価





# クームス法 (添加剤) の比較

クームス法実施 67

検査法	試験管法				カラム法	不明
	ペグ	アルブミン	ローイオン	なし	ローイオン	
+	13	4	3	0	0	0
-	3	29	2	2	9	2

# まとめ 1

- ✎ 検体 2 (A1Bm) の血液型において判定保留及び誤解答が多数みられた。吸着解離試験陰性となった施設が多かったためと思われる。
- ✎ 検体 4 (抗P1+Fyb) のクロスマッチにおいて2/3の施設が不適合を検出できなかった。間接クームス法の方法が大きく関与している。
- ✎ 検体 3 (Bm)、検体 5 (抗E+M) においては良好な結果が得られていることから、検査の進め方ではなく検査精度 (感度) について再確認が必要であるとおもわれた。

# まとめ 2

- ✎ 試薬のモノクロ化に伴い「日臨技標準法」と試薬メーカー推奨の方法との間に乖離がみられ、「日臨技標準法」に従ったため良好な結果が得られない施設が多数あった。
- ✎ 実施施設からの意見として「難しすぎる」、「検体が凝り過ぎ」という意見があった。

# 今後に向けて

## ☞ 「日臨技標準法」の改正

現在、改正作業の行われている 新・「日臨技標準法」に対応したサーベイ

## ☞ 小規模検査室への対応

試薬、設備に限りの有る小規模施設にも実施しやすく有用なサーベイ

## ☞ 日臨技輸血検査ガイドライン

輸血検査に最低限必要と思われる試薬、手技を冊子化し配布